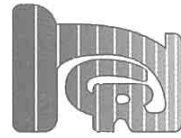


# フィリア・レター

～ 真の友人からの手紙 ～



発行所: 中部ろうさい病院

〒455-8530

名古屋市港区港明1-10-6

TEL 052-652-5511

FAX 052-653-3533

<http://www.chubuh.rofuku.go.jp/>

## 外来のご案内

### 消化器科

消化器科では、月曜から金曜の毎日、2名の医師が午前中の診療を担当しています。また午後は、月曜、水曜のみ診療をしています。内視鏡、CT検査、超音波検査など診断の為に必要な検査や健康診断でさらに精査が必要といわれた方の検査は、ほぼ外来で比較的短期間のうちに済ませて結果をお話できる体制になっています。また大腸内視鏡などは患者さんの希望があれば、検査入院も可能です。今後できるだけ早く毎日

の診療を3名の担当医師に増やしたいと考えています。



### 外科

診療時間：月曜日～金曜日 朝8時45分から12時まで。外科医師3名、看護師3名、看護助手(受付)1名で診療を行っております。外科で担当する病気は主に消化器疾患(食道、胃、小腸・大腸、肝臓、膵臓、胆のう等で手術が必要な疾患、虫垂炎、鼠径ヘルニア、痔など)と乳腺疾患です。なお、乳がん検診は火曜日と木曜日の午後に予約制で行っています。初診の方もできる

限り迅速に診察いたしますが、できればかかりつけ医の紹介状をお持ちください。



### 形成外科

以前は、やけどや傷あとの相談が多かったのですが、最近は「傷はすべて形成へ」という傾向が見受けられます。顔はもちろんですが、手足や体にキズを負った方が皆さん形成外科を受診されます(もちろん顔面骨以外の手足の骨折などは整形外科にかかることとなります)。最近の傷の治療原則は「湿潤療法」で、傷を消毒しない・乾かさないという治療を積極的に行っているこ

とをアピールすることで遠方からも受診されるかたが増えてきています。



## 代謝内分泌内科

あなたは大丈夫ですか?“糖尿病”

糖尿病は、血糖値を下げるインスリンの量と作用が不十分のため起こる病気です。さらに体質、加齢、生活習慣の悪化でいつからか血糖が上がってしまうのです。適切な治療を受ければ、悪化を食い止めることができます。でも、軽症のうちには自覚症状を伴わないため、ついつい放置してしまう人も多いのです。

戦後間もないころには、ほとんど見られなかった糖尿病は、H19年には我が国で890万人が患っていて、1320万人に疑いがあるという大国民病となってしまうました。でも糖尿病の人の約半分しか定期的に通院していないと言われています。未通院の方は、将来大きな問題が降りかかって来ること間違い有りません。

あなたはどうでしょうか？

チェックリスト／

- 1) 肥満である
- 2) 家族に糖尿病の人がいる
- 3) 40歳以上である

- 4) 運動不足だ
- 5) お酒を大量に飲む
- 6) 夜中に2回以上トイレに行く
- 7) 最近急に太った、または痩せた
- 8) 物が見えにくくなった

※チェックがたくさんついた人は、精密検査をした方がいいと思われ、是非一度、どちらかの医療機関に受診をお勧めします。

現在、中部ろうさい病院糖尿病センターでは、約3000人の患者様がお見えになっており、長い方では何十年間も通院していただいております。今後ともこの地域の糖尿病患者様の健康に少しでもお役に立てればと考えております。今後ともよろしくごお願い申し上げます。



## 呼吸器外科

平成19年(2007年)4月に中部ろうさい病院に呼吸器外科が新設され、約2年が経過し、昨年(平成20年1月から12月まで)1年間で呼吸器外科手術83例(肺癌35例)を行いました。

当科では、近年増加を続けている肺癌をはじめ、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、胸壁腫瘍、胸膜腫瘍、肺嚢胞症、自然気胸などの外科治療を専門に行っています。

その中で原発性肺癌は日本でも年々増加の傾向を示し、1993年には男性では胃がんを抜いて悪性腫瘍の中で死亡原因の第1位(21.6%)となりました。女性においても増加傾向は同様であり、1998年には、男女合わせたがん死亡原因の第1位となりました。2005年には、肺癌による死亡数は62,058名となっており、今後さらに増加し15~20年後には、現在の約2倍~2.5倍の死亡数が予想されています。治療法は通常TNM分類による病期に基づいて決められ、臨床病期Ⅰ期、Ⅱ期、ⅢA期までを通常手術対象にして

います。近年、CTなどの画像診断の普及により、従来の胸部単純X線では指摘困難な薄い2cm以下の末梢小型肺腺癌が診断される頻度が増加しており、このような症例は手術により十分根治可能となりました。当院では、そのような薄い病変の詳細な評価が可能な64列マルチスライスCTなどの診断機器を整備しており、肺癌の早期発見・早期治療に努めております。

その他、縦隔腫瘍、胸壁腫瘍、胸膜腫瘍、肺嚢胞症などの呼吸器外科領域の疾患のことでお悩み・ご不明な点があれば何でも尋ね下さい。



★「フィリア・レター」は、「中部ろうさい」病院が、患者さまに向けて当院の現況や新しい医療情報などを発信したり、患者さまの建設的な意見を反映する広場として発行しています。

## 呼吸器内科

呼吸器内科では現在、常勤医4名、非常勤医師2名での外来診療態勢をとり肺炎、気管支炎などの急性疾患に始まり、気管支喘息、COPD、間質性肺炎などの慢性疾患や、肺がんやアスベスト関連疾患についても積極的に診療を行っています。その他、咳、痰、呼吸困難などお困りの症状についてもご相談に応じております。今後も皆様のご期待にお応えできるようスタッフ一同努

て参りますのでよろしくお願い致します。



## 眼科

みなさん、こんにちは！眼科新外来棟2階中央あたりで外来診療を行っております。朝8時30分から始まりますが、病棟回診の兼ね合いで、医師により診察開始時刻は異なります。当科初めての方や予約外の方の外来受付は11時までです。眼科では診察時に必要となる視力検査や眼圧検査などを医師の診察前に行っています。予約のある方の予約時間はこれら診察前に行う検査の開始時刻で、医師の診察はもう少し遅くの時間になります。

予約時間が医師の診察時間ではありませんのでよろしくご了承ください。



## 神経内科

神経内科とは、脳・脊髄・末梢神経・筋肉の病気を診療する専門科です。以下のような症状をお持ちの方は受診してください。手足の麻痺・脱力、しびれ、筋肉のやせ・痛み、手足や首・頭のふるえ、頭痛、神経痛、動作緩慢、顔面のゆがみ・痛み、けいれん、物忘れ、言葉のもつれ、歩行時のふらつき、日常生活の動作に不自由のある方

なお、精神不安やイライラなどの精神症状についての診療は行っていません。



## 脳神経外科

当院の脳神経外科は、腫瘍・脳血管障害・外傷に関する顕微鏡手術はもちろん、最近急速に普及してきた血管内治療にも力を入れています。専門医の資格を持ったスタッフが揃っていますので、患者さんの病状や病変部位に合わせて最適な治療を選択することができます。

紹介されます。また、リハビリテーション科とは入院初期の段階から連携して、運動障害や言語障害の早期回復に努めています。



★中部ろうさい病院のホームページで、〈病院の情報〉〈フィリア・レター〉〈ろうさい病院つうしん〉がご覧いただけます。携帯電話からもアクセスできます。どうぞ、ご利用ください。

## 小児科

当院小児科は、新生児から思春期までのお子さまについて、外科系の病気以外の、体や心に関わる全ての変調について御相談に応じます。

午前は、子どもさんの一般的な病気を主に診察します。

午後からは予約で、気管支喘息、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎などにつきましては、それぞれのガイドラインを参考にし、食事を含めた生活環境整備への助言など、お子様・保護者さまとの共同作業で、日常生活の質を高めていくよう、お一人お一人にあった治療を組み立てさせていただきます。生活習慣病の予防に、肥満児の

方々が意欲的に減量に取り組むように指導しています。低身長にたいする成長ホルモン療法をすすめています。小児糖尿病の管理もしています。てんかんなど小児神経疾患も見させていただいています。心の悩みについてもご相談に応じます。



## ～ 患者さんの声 ～

どっこいしょ

これが60代後半からよく聞こえて来る足腰の痛みと付き合っている人の掛け声だ。内臓の病ではこんなのきな声にならず心が痛む、今から45年前頃は主に医者と言えれば内科。現在のようにさまざまな診療科がなかった。今日もまた膝の痛みがどう変わるか、自分で自分の身体の試験だ。ある時は腰を下ろし自分より強い機の脚に自分の足首に腰紐を引っ掛け、身体を上下にスライドさせたり、一升瓶を膝枕にして足を上下にごろごろ揺すっていた。またある時は土手のヨモギ草を乾燥させ、手もみして残る綿状のものを耳かき大に丸めて、痛い皮膚の上にのせマッチで火をつけ神経を刺激する方法。何もかも親からの見よう見まね療法だった。

やがてさまざまな医療機器の開発に伴い、レントゲン撮影など痛い箇所が一目でわかるよう優れものが登場。ついに痛さに耐えきれず、「先生、今日は冷え込むせいで特に足の関節が痛いが何とかならないか」。「こりやお前さん、膝に水が溜まっているよ。

抜けば楽になるからね」。「おねがいします」。こんな先生と患者の会話も微笑ましい。「はい次の方」。今度は若い腰痛の問診を受け、レントゲン撮影にて検査入院及び手術が必要となる。若い者に限り不安感もあるが、痛さが少しでも和らげると思えば手術を逃す訳にはいかない。

「俺も早くもまな板の上の鯉になってしまったか」、しばらくはベッドでうなだれ考え込んだが急に気持ちを新たに、「よし、先生方を神よりも信じよう」。手術の方も予定通り成功の知らせ。「先生、看護師さんありがとう」、2,3日のうちにあの腰痛の苦しさが嘘のように消えた。やがてリハビリが始まり屋上公園散歩の許可も出て、よろめきながらも久しぶりに外風と対面。自分の身体ではない感覚だ。誰でも一度は経験済みだが、まるで仮免許で路上運転に出た気分。長年日常生活で苦しんだ腰痛、あるいは膝関節痛に悩まず、医師に打ち明け早く階段の上り下り、楽になりたいですね。

2009年4月5日

(名古屋市熱田区 K.S)

## 編集後記

全国的に新型インフルエンザが広がってきました。

感染者が連日のように報告されており、今後、9月下旬から10月にかけてピークを迎えると予測されています。新型インフルエンザの流行を乗り切るために、手洗い・うがいの習慣、マスクの着用、十分な栄養・休養をとって抵抗力を高めるなど日頃から予防に努めましょう。

感染を拡大しないために、一人一人の心がけが大切です。

(H・T)